

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関名：聖徳大学大学院教職研究科 事業名： 聖徳大学教職大学院地域連携研修「未来創造研究会 2024」 主体的に学べる多様な学びプロジェクト 研修等名：【NITS・聖徳大学教職大学院コラボ研修】 11月9日 心の声が言葉になる「あのね、ほんとうはね」- 院内学級の子もたちが教えてくれた大切なこと- 12月7日 幼保少の連携について 2月1日 若手教員への支援について 開催日時：令和6年11月9日 14時～15時 開催場所：聖徳大学（千葉県松戸市岩瀬550） 参加人数（総数）と参加者の属性：74人 幼・小・中学校教諭、特別支援学校教諭、大学教員、学部学生 開催日時：令和6年12月7日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：22人 幼・小・中学校教諭、特別支援学校教諭、教育委員会関係者、 大学教員 開催日時：令和7年2月1日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：14人 幼稚園教諭、小学校教諭、教育委員会関係者、大学教員
--	--

目的：

本学教職大学院では、「幼児教育」「学校教育」「特別支援教育」を専門とする現職教員が学んでいる。3年前より教職大学院が主催した特別支援教育を中心とした地域連携研修会「未来創造研究会」を開催し、本学の院生や修了生のみならず地域の幼稚園・こども園・小・中学校の現職教員と共に学びあい、地域における教育の発展や教師、保育者の力量の深まりにつながるなどの実績をあげてきた。今回申請した事業では、これまでの「未来創造研究会」をさらに発展した「未来創造研究会 2024」として内容を再構築し、地域連携研修会として専門性によって対象を限定せず、教師、保育者が日々の実践や研究の話題提供を行うこととした。本事業を通して、教師、保育者がそれぞれの立場で話題提供に関連する自己の実践を振り返るとともに、他者の考えを知ることにより、自らの枠組みを拡げ、新たな視野のもとに教育や日々の実践を豊かにすることが予測された。そこで、本事業での学びあいが、教師や保育者自身の実践の振り返りや気づきにつながるのか、話し合いといった協働的で対話的な学びが、参加者自らの考えや枠組みの変容につながるのかを実証することを目的とした。

内容：

「幼児教育」「学校教育」「特別支援教育」に関連するテーマを取り上げて、3回の「未来創造研究会 2024」を実施した。1回は対面での開催であったが、2回はオンラインによる開催であった。各回の進め方としては、20～30分程度の話題提供をしていただき、その後にグループディスカッションを30分程度行い、グループで話し合ったことを発表して全体で共有するという流れであった。

<各回の内容>

○11月9日 昭和大学大学院准教授 副島賢和先生をお招きして、院内学級の児童生徒の心理と具体的な実践について話題提供をいただいた。質疑応答の後にグループに分かれて病気を持つ子供の心理や実践についての理解できたこと、実践している場合は現状について意見交換を行った。

○12月7日 東京都公立幼稚園園長 川越裕子先生をお招きして、幼保小の接続として実践された内容や研究としてまとめられたことについて話題提供をいただいた。グループに分かれて幼保小の接続の現状と課題について意見交換を行った。

○2月1日 私立幼稚園教諭 坂口優香先生をお招きして、若手教員の支援についてアンケート調査やインタビュー調査から導き出した結果や若手教員育成試案について話題提供をいただいた。グループに分かれて、若手教員がおかれている現状と若手教員への支援の状況について意見交換を行った。

成果：

研究会後にアンケートを実施した。アンケートに記載された参加者の声の一部の抜粋を以下に示す。

○11月9日

・通常の教育の中にも病気を持っている子どももいることから、改めて病気を持つ子どもが言葉にできない心理を思い描くことができるようになりたいと強く思った。今後、実践していきたい。

・病気を持っている子どもの思いが痛いほど伝わってきた。グループでの話し合いでもおとなしく過ごしていると見逃していることがいくつもあったかもしれないという振り返りの話があり、思わずうなずいてしまった。今回は病気の子供の話であるが、障害のある子どもや診断はないが課題を抱えている子どもにも同じことが言えるのではないかと思った。言葉にできない思いを受け取れるような日々の実践をしていきたい。

○12月7日

・グループの意見交換が活発で、保育に携わる方々の言葉に子どもの成長を大切に日々関わっていることを感じた。子ども目線に立った話題にもなり、段差をなくす接続のために、何が足りないのか、何が課題なのかの問いのもと、意見を交わすことができ有意義であった。

・何をつなぐのか。という問いがとても新鮮でした。幼児教育と小学校教育の相互理解をすることが職員同士の心の距離を縮めていくことにつながる。そうすることが必要なんだと感じました。

・素晴らしい実践のお話に、大きく刺激をいただきました。小学校と同じ校舎・園舎なのに、大規模校・園であることで、交流すらままならないと諦めておりましたが、教育課程の編成が始まるこの時期に、この会に参加させていただき、新たな一步を踏み出そうと勇気をいただきました。

○2月1日

・「教員としての知識・技能を大学でどこまで育てるか」「現場の研修で、実践が理論に支えられている内容が大切。教員にとって必要な技能は何か、はっきりさせるべき」とのご意見は、今後の示唆をいただいたように思います。

・若手のパーソナルの理解をもって支える人間関係づくりは大切である。しかし、理論と実践に裏付けられた技能も大切であり両輪を上手く回すことこそ「働きがい」を向上させるのではないかと思った。本日のグループ討議で得たことを大切にして、講座を構築し、保育者を支えていきたい。

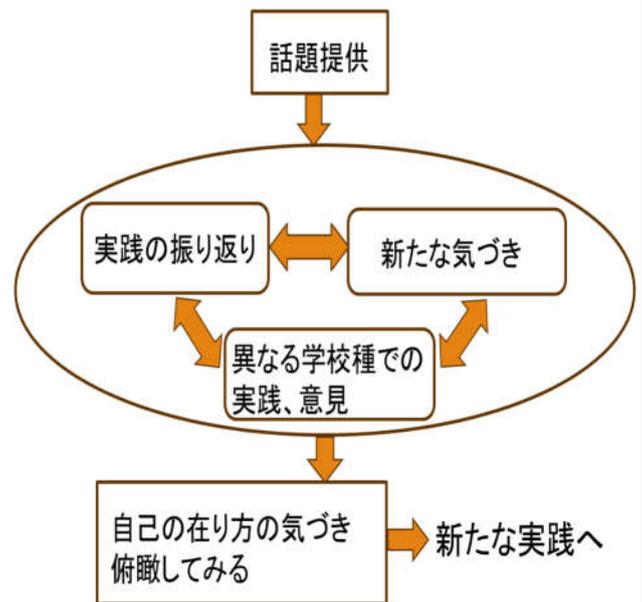
・「任されることがうれしい」という若手教員の意見にハッとしました。人として育てていく、ということも含めて関わっていくことの重要さを痛感いたしました。理論と実践を結び付けていくことで、自分のしていることの価値づけになり、それが教員としてのモチベーションになることも学びました。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

「NITS からの提案（第一次）」を参考にして、本事業では参加者を主語にした研修として、研修方法にグループディスカッションを取り入れ、多様な学校種、立場の教員と一緒に共通の話題提供について学ぶことで、何に気づくか、どのような変化があるのかについて検証を行った。

3回のディスカッションやディスカッション後の発表、アンケートの結果を通して、話題提供やグループディスカッションから豊かな実践の省察や自己の振り返りがあることに気づかされた。さらに多様な立場の教員が参加した意見交換によって、改めて所属している学校種での実践の在り方そのものが固定概念になっていること、それが暗黙のうちに使っている「自己の枠組み」になっていたことに気づいたといったアンケートの記述から、多様な他者との学び合いが有効であることを確認できた。

研修では専門性を深めるために専門や学校種が同じになりがちであるが、研修を工夫することで多様な他者との学び合いが可能であり、それが実践の振り返りに大きな影響を及ぼすことを認識する機会となった。



アイデアや工夫したこと：

1. 各回の研究会ごとにチラシを作成して、HPや郵送により広報を行った。これらの広報により、大学のある千葉県を含めた関東近県だけではなく、静岡県、愛知県、岡山県など遠方の方から申し込みがあり、研究会の参加につながった。

2. 専門領域に関係する教員だけの参加にならないように異なる学校種にも研究会の実施の周知を行った。異なる学校種でも共通となる話題提供の内容を検討したのちに講師を依頼した。

3. 話題提供は 20～30 分程度の短い時間で行ってもらい、その後のグループディスカッションに時間をかけ、最後に発表して共有する研修とした。全体では声を上げにくい様子があったが、グループの中では活発な意見交換が行われた。

【NITS・教職大学院コラボ研修プログラム】
未来創造研究会2024 第5回
～主体的に学べる多様な学びプロジェクト～
こころの心が言葉になる
「あね、ほんとうはね」
一院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なことー
講師 副島賢和（そえじま まさかず）先生
NHKテレビ「プロフェッショナル仕事の流儀」でも取り上げられた副島 賢和先生をお招きします。院内学級で学ぶ子どもたちの思いを一緒に探しましょう。
開催日時 11月9日（土）
時間：14:00～15:00
会場 7号館2階 7201教室
登録なしでもどなたでもご参加いただけます。参加費無料。
＜講師紹介＞
1968年福岡生まれ。聖徳大学大学院保健福祉学専攻保健福祉学専攻、聖徳大学保健福祉学専攻、大学卒業。東京都立中央高等学校教員として勤務し、東京都立市内公立小学校に勤務。2009年、東京都立看護専門学校、石巻市立聖徳大学大学院にて心療学を学ぶ。臨床から臨床心理士の資格取得（14年4月）取得。
【お問合せ】
聖徳大学教職大学院 047-365-1111（大代表）
担当 藤川一恵・太田裕子 kosikawa@wa.seitoku.ac.jp

【NITS（教職員支援機構）・教職大学院コラボ研修】
未来創造研究会2024 第6回
～主体的に学べる多様な学びプロジェクト～
12月7日（土） オンライン型zoom
16:30 - 18:00 参加無料
【テーマ・話題提供者】
幼保小の接続について
東京都中央区立幼稚園園長 川越 裕子先生
プログラム
16:30 話題提供・質疑応答
17:00 グループディスカッション
17:30 情報交換アンケート
※お申し込みはコチラのQRコードより
※Zoomに加入していただき、お申し込みの必要はありません
お問い合わせは 申し込みはコチラで検索
聖徳大学教職大学院 担当 藤川一恵
kosikawa@wa.seitoku.ac.jp